

『あなたの心は開かれていますか？』

’21/03/14

聖書箇所: マルコの福音書 7 章 31 節-8 章 26 節 (新約 p.79-)

ひょっとしたら、皆さんは、今から 2000 年前、イエス・キリストが宣教を開始された時、大勢の者たちがイエス様のメッセージを“すぐに”理解して…、次々に信仰を持っていったと思っておられませんか？…しかし、マルコ伝のみことばを、ここまで学んできて、ある程度、分かってきましたのは…、当時、イエス様が語ってくださったメッセージと、大勢の者たちとの理解や彼らが持っていた期待との間には、実は、大きな“ミゾ”があったということです…。

命題: イエス様が訴えられたメッセージを、当時の人々はどう理解したか？

今日、私たちは、イエス様がなしてくださった3つの奇蹟を一気に見ていきます。本当は、少しずつ、見ていきたかったという気持ちもあるのですが、やはり、これらは、1つの流れ、1つの文脈として、理解した方が良いと思いましたので、1回のメッセージの量としては、結構長いのですが、あまり小さなことには注目せず…、大きな点にだけ目を向けて、今日は学んでいきたいと思えます。

聖書のみことばは、いつも学んでおりますマルコ 7:31 から、章をまたいで、8:26 までになります。どうぞ、新改訳聖書の第3版をお持ちでしたら、新約聖書の 79 ページをお開きくださいますか？今日は、そのみことばから、当時、イエス様が訴えてくださったメッセージを、当時の者たちが、どのように理解したか？というテーマでもって、聖書のみことばを学んでいきたいと思えます。

そうすることによって、願わくは、今日このメッセージを聞いてくださった皆さんが、当時、イエス様と群衆の者たちとの間にあったギャップというものを理解して下さって、今後、私たちが語っていくべきメッセージというものを、より明確に理解していくことができ…、例え、私たちが語ったことが上手く伝わらなかった…、あるいは、支持されなかったとしても、神様の前に正しいメッセージを私たちが勇氣と希望をもって語っていけるようになっていけることを願います。

I・ろう者が癒された時！(7:31-37)

どうぞ、まずは、今日見ていく最初の奇蹟…、“ろう者”が癒された時のことが記されてあるみことばである、マルコ 7:31-37 をご一緒に見ていきましょう！…さて、このみことばから、どういったことが分かるでしょう？

- 31 それから、イエスはツロの地方を去り、シドンを通って、もう一度、デカポリス地方のあたりのガリラヤ湖に来られた。
- 32 人々は、耳が聞こえず、口のきけない人を連れて来て、彼の上に手を置いてくださるよう、願った。
- 33 そこで、イエスは、その人だけを群衆の中から連れ出し、その両耳に指を差し入れ、それからつばきをして、その人の舌にさわられた。
- 34 そして、天を見上げ、深く嘆息して、その人に「エパタ」すなわち、「開け」と言われた。
- 35 すると彼の耳が開き、舌のもつれもすぐに解け、はっきりと話せるようになった。
- 36 イエスは、このことをだれにも言うてはならない、と命じられたが、彼らは口止めされればされるほど、かえって言いふらした。
- 37 人々は非常に驚いて言った。「この方のなさったことは、みなすばらしい。耳の聞こえない者を聞こえるようにし、口のきけない者を話せるようにされた。」

●ここで起こった 出来事

まずは、今読んだみことばから、この当時、実際に、どういったことが起こったのか？聖書のみことばは、何を伝えようとしているのか？ということに注目していきましょう。…ここで起こった“出来事”は、簡単に言うと、イエス様が、耳と口が不自由だった者を癒されたということです。

そのことを、もう少し詳しく観察していきますと、イエス様の一行は、この時、前回見たツロを離れて…、ギリシャ語で、「10 の町」という意味の、『デカポリス』という辺りへ移動されます。前に出てきた地図をご覧くださいたら分かります通り、これは、前回見たツロからすると、ガリラヤ湖を挟んで、ちょうど、正反対の方向…、ほとんどがヨルダン川の東側になります。ここも、また、ユダヤ人たちからすると、「異邦人の地」になります。

すると、そこには、『耳が聞こえず、口のきけない人』がいました。現在、私たちは、こういったような方たちのことを、「ろう者」とか、あるいは、「ろうあ者」と呼んだりすると思いますが…、この「ろうあ」の「あ」の部分は、「口がきけない」ということを意味しているそうです。…その昔は、耳が聞こえない、イコール、話もできないと考えられていましたが、現在では、様々な訓練によって、耳が全く聞こえなくても、ある程度、発声で言葉を話せたり…、あるいは、手話という言葉で、会話もできる、ということで、「ろうあ者」という表現よりも、「ろう者」と言う場合が好まれているそうです。

さて、この時、イエス様は、そのろう者のことを、群衆から連れ出して、その者のことを、一瞬の内に、癒してくださいました。いつも、言いますように、聖書が教えてくれている、本物の癒しは、一瞬で起こります。それが、この世の“怪しげな癒し”と違う部分であります。この時、イエス様が癒しをなされるに当たって、その両耳に指を差し入れられたり、つばきをされたというのは、もちろん、何か意味があったらうとは思いますが、その理由は、イエス様にしか分かりません。多分、私は、一種のコミュニケーションと言わ、イエス様なりの手話を使って、そのろう者に、これから癒されることを伝えてくださったのではないかと考えています。…それと、ここ 34 節でイエス様が、天を見上げられたというのも、究極的には、イエス様にしか、その理由は分かりませんが、恐らく、この癒しが、天からのものである…、つまり、「神が癒されたのですよ！」というメッセージではないでしょうか？

●当時の者たちの 関心

さて…、今日皆さんに注目していただきたいのは、その“前後”です。どうぞ、まずは、32 節に注目してみてください。…果たして、このろう者は、イエス様のことを聞きつけて、“自分で”やって来たのでしょうか？⇒いいえ…、このろう者は、自分でやって来たのではなく、その周りにいた人々が、このろう者をイエス様のところへと連れてきたのです(マタイ伝も同じ)。少なくとも、今日のみことばには、そのようなニュースで書かれてあります…。

恐らく、この時、デカポリス地方の者たちは、多少、イエス様のことを聞いて、知っていたのでしょう。だから、彼らは、イエス様の所へ、このろう者のことを連れてきたのです。並行箇所であるマタイ伝 15 章を見ても、この時、『大ぜいの人の群れが、足のなえた者、手足の不自由な者、盲人、口のきけない者、そのほか多くの人をみもとに連れて来た。…』(マタイ 15:30)と記されてあって、ここでも、病人たちが自分たちで、イエス様のところへやって来たという感じではなくて、『大ぜいの人の群れが…』病人たちを連れて来た…という感じで記されてあります。

このように、この当時、大勢の者たちの“関心”は？と言うと、イエス様が語ってくださる神の国の話や救いの話では“なくて”…、間違いなく、癒しの方にあつたのです。だから、どうぞ、今度は、36 節のみことばに注目してみてください。ここで、イエス様は、この癒しのことを口外してはならない！…つまり、人々に言い広めてはならない！とおっしゃっているのに、当時の者たちは、それを我慢できなかったのです。ま、正直言って、耳や口がきけなかった者が、ちゃんと聞いたり、話せたりできるようになったら、その喜びは、

抑えきれないと思いますが…、でも、今日のみことばを観察すると、この時、口止めされたのも、また、それを言いふらしたのも…、『彼らは…』と複数形で書かれてあることから、“群衆たちの方であった”ことが分かります。

私たちも、マルコ伝をここまで学んでくるまでに、何度か、こういったシーンを確認してきました…。このように、大勢の者たちの関心は、いつもいつも、癒しにばかり向いておりました…。しかし、イエス様の方は、そうではなくて…、肉体が癒されることよりも、たましいが癒されることの方を優先しておられたのです…。そうでしょ？…どうか、そういったことを、皆さんには、ぜひ分かっていただきたいと思います。

II・4000人の給食があった時！(8:1-9)

どうぞ、今度は、マルコ伝8章で、イエス様が、4000人もの人々に、“給食”を与えられたという奇蹟を観察していきましょう。マルコ8:1-9には、こう記されてあります。

- 1 そのころ、また大ぜいの人の群衆が集まっていたが、食べる物がなかったので、イエスは弟子たちを呼んで言われた。
- 2 「かわいそうに、この群衆はもう三日間もわたしといっしょにいて、食べる物を持っていないのです。
- 3 空腹のまま家に帰らせたら、途中で動けなくなるでしょう。それに遠くから来ている人もいます。」
- 4 弟子たちは答えた。「こんなへんぴな所で、どこからパンを手に入れて、この人たちに十分食べさせることができますよう。」
- 5 すると、イエスは尋ねられた。「パンはどれくらいありますか。」弟子たちは、「七つです」と答えた。
- 6 すると、イエスは群衆に、地面にすわるようにおっしゃった。それから、七つのパンを取り、感謝をささげながらそれを裂き、人々に配るように弟子たちに与えられたので、弟子たちは群衆に配った。
- 7 また、魚が少しばかりあったので、そのために感謝をささげてから、これも配るように言われた。
- 8 人々は食べて満腹した。そして余りのパン切れを七つのかごに取り集めた。
- 9 人々はおよそ四千人であった。それからイエスは、彼らを解散させられた。

●ここで起こった出来事

つい最近、私たちは、ことよく似たエピソードを学びました。でも、そういった感覚は、私たち以上に、イエス様の弟子たちが、そうであったはずで…。…にも関わらず、彼ら弟子たちは、先に経験したことから、あまり学ぶことが無かったようです。…今回の奇蹟に関しても、まずは、ここで、どういったことが起こったのか？ここで起こった“出来事”について、簡単に観察していきましょう。

この時も、イエス様の周りには、たくさんの群衆がおりました…。ここ9節には、「おおよそ4000人であった」とありますが、マタイ伝の並行記事を見てみると、『…女と子どもを除いて、男四千人であった。』(マタイ15:38)とありますので、実際には、もう少し多かったことが分かります。

さて、そんな中で、イエス様は、この時も、弟子たちのことを呼び寄せて、こうおっしゃいます、「かわいそうに…、この群衆はもう3日間もわたしといっしょにいて、食べる物を持っていない。このまま、帰らせたら、途中で動けなくなるでしょう…」って…。

そうして、イエス様は、あの5000人の給食の時と同様、そこにあった7つのパンと少しばかりの魚を感謝して…、何と、それらを増やして、今度は、4000人以上の者たちが満腹した、というわけです。そうして、この時にもまた、その残りを回収すると、今度は、7つのかごになったというわけです。強いて言えば、前回、5000人の給食の時は、人々を帰らせることも可能だったみたいですが、この時は、かなり辺りな場所であったため、そのまま帰らせることが、少々難しかったという感じでしょうか。…しかし、この時もまた、イエス

様は、神の奇蹟をもって、人々の必要を満たし…、ご自分こそが、約束の救い主である！ということの証明…、証しをされたわけですね。

●弟子たちの反応

もちろん、この奇蹟においても、弟子たちの反応と言うか、彼らの様子に注目したいと思います…。この時も、イエス様は、わざわざ、弟子たちのことを呼び寄せて、こうおっしゃいます、「かわいそうに…、この群衆はもう3日間もわたしといっしょにいて、食べる物を持っていない。このまま、帰らせたら、途中で動けなくなるでしょう…。どうしたら良いと思いますか？」って…。多分、皆さんなら分かってくださいますよね？この時、イエス様が期待しておられた、弟子たちの反応がどういったものであったかを…。

そうですね！イエス様は、弟子たちが、「確かに、私たちには無理です。でも、イエス様なら、何とかできるのではないですか？」というような返事と言うか…、イエス様の正体を知り、イエス様を信頼しているからこそ、出てくるような回答を、イエス様は期待しておられたはずなのです。…そうじゃありません？

しかし、悲しいことに、この時の弟子たちは、そういったような“模範回答”をすることができませんでした。この時、弟子たちが言ったのは、「こんなへんぴな所で、どこからパンを手に入れましょうか？」というような、極普通の…、信仰が有るか無いか分からないような返事だったのです。

III・心が頑なな者たちの間違い！(8:10-21)

すみません…、今日は、聖書箇所が長いので、3つ目のポイントに移らせていただきます。…その後の、マルコ8:10-21のみことばに記されてあることは、心が“頑な”な者たちの間違いであります。そこには、このように記されてあります。

- 10 そしてすぐに弟子たちとともに舟に乗り、ダルマヌタ地方へ行かれた。
- 11 パリサイ人たちがやって来て、イエスに議論をしかけ、天からのしるしを求めた。イエスをためそうとしたのである。
- 12 イエスは、心の中で深く嘆息して、こう言われた。「なぜ、今の時代はしるしを求めるのか。まことに、あなたがたに告げます。今の時代には、しるしは絶対に与えられません。」
- 13 イエスは彼らを離れて、また舟に乗って向こう岸へ行かれた。
- 14 弟子たちは、パンを持って来るのを忘れ、舟の中には、パンがただ一つしかなかった。
- 15 そのとき、イエスは彼らに命じて言われた。「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とに十分気をつけなさい。」
- 16 そこで弟子たちは、パンを持っていないということで、互いに議論し始めた。
- 17 それに気づいてイエスは言われた。「なぜ、パンがないといって議論しているのですか。まだわからないのですか、悟らないのですか。心が堅く閉じているのですか。
- 18 目があがりながら見えないのですか。耳があがりながら聞こえないのですか。あなたがたは、覚えていないのですか。
- 19 わたしが五千人に五つのパンを裂いて上げたとき、パン切れを取り集めて、幾つのかごがいっぱいになりましたか。」彼らは答えた。「十二です。」
- 20 「四千人に七つのパンを裂いて上げたときは、パン切れを取り集めて幾つのかごがいっぱいになりましたか。」彼らは答えた。「七つです。」
- 21 イエスは言われた。「まだ悟らないのですか。」

●パリサイ人たちの問題

デカポリスの後で、イエス様の一行が行かれたのは、『ダルマスタ』という地方でありました。実は、この『ダルマスタ』という地名は、聖書中、ここにしか出てこないこともあって、詳しい場所が分かりません。恐らくは、ガリラヤ湖の西側であろうと考えられています…。

まず、そこに登場してきたのは、あのパリサイ人たちであります。パリサイ人たちは、この当時の宗教家、所謂、ユダヤ教の教師たちであります。彼らは、イエス様のことをやっかんで、イエス様のことを試してやろうとして、「天からのしるしを見せてみろ！」などと言ってきたようです。ここで、『しるし』と訳されてあるギリシヤ語の言葉(σημείον)は、「しるし(の他)、目印、合図、証拠、証印、奇跡…」を指すような単語で、要は、イエス様に対して、「あなたが神の子なら、その証拠を見せてみろ！」というわけです。

しかし、それに対して、イエス様は、こうおっしゃいます、12 節、『なぜ、今の時代はしるしを求めるのか。まことに、あなたがたに告げます。今の時代には、しるしは絶対に与えられません。』って…。イエス様の発せられた、こんな言葉を聞いて、皆さんは、疑問に思われませんか？…だって、ここで、イエス様は、『今の時代には、しるしは絶対に与えられません。』と言われましたけれども、特に、ヨハネ伝を見ても、こういったようなみことばが幾つかあるからです。

例えば、ヨハネ 2:11、『イエスはこのことを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行い、ご自分の栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。』⇒これは、イエス様が、ガリラヤのカナという所で、水をぶどう酒に変えられた奇蹟のことを言っています。…また、ヨハネ 4:54、『イエスはユダヤを去ってガリラヤに入られてから、またこのことを第二のしるしとして行われたのである。』⇒今度、これは、イエス様が、死にかけていた役人の息子を癒してくださったという奇蹟のことです。最後、ヨハネ 20:30、『この書には書かれていないが、まだほかの多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で行われた。』…と、まあ、このような感じで、ヨハネ伝のみことばは、イエス様の復活を別として、多分、7つのしるしが記されています。

しかし、じゃあ、一体なぜ、イエス様は、パリサイ人たちに対して、『今の時代には、しるしは絶対に与えられません。』なんていうことを言われたのでしょうか？⇒恐らく、それは、こういうことです。…この時、パリサイ人たちは、イエス様に対して、「あなたが神の子なら、その証拠を見せてみろ！」みたいなことを言ったわけです。しかし、そんな彼らが満足して…、「ああ！あなたこそが神の子です！」となるような「しるし」…、つまり、言い換えれば、パリサイ人たちが主張したような…、「パリサイ人たちがイエス様のことを信じるようなしるし」は、与えられない！ということではないでしょうか？…と云いますのも、彼らの心は、完全に閉ざされてしまっていたからです。…そんな者たちの心が開かれるようなしるしは与えられない！というように、イエス様は言いたかったのではないのでしょうか？

● 弟子たち の問題

いいえ、心が閉ざされていた、という点においては、実は、イエス様の弟子たちも同じようなものです。…と云いますのは、パリサイ人たちとのやり取りの後、こんなことがあったからです。…先程のみことばに記されてあったように、舟の上で、イエス様は、パリサイ人たちやヘロデのことを警戒するよう、弟子たちにおっしゃいます。それが、このみことばです、15 節、『そのとき、イエスは彼らに命じて言われた。「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とに十分気をつけなさい。』⇒ここで、イエス様は、『パン種』という例えでもって、弟子たちに十分気をつけるよう警告をしてくださいました。実は、『パン種』といいますが、それをパン生地の中に入れて、それが全体に広がってパン全体をふくらませることができるからです。…当時のユダヤ人たちは、そういったことを罪の象徴と考えて、過越の時にはパン種を入れないパンを食べたし、あのパウロは、コリントの教会に入っている悪を、パン種に例えています。弟子たちが警戒すべきだったのは、そのパリサイ人たちと、あのバプテスマのヨハネを死に追いやったヘロデだということを、イエス様はおっしゃったのです。

しかし、どうぞ、16 節に注目してみてください…。…ここで、弟子たちは、どういう反応を示しています？何と！驚くべきことに、この時、弟子たちは、イエス様が例えに使った、パン種のことから連想して、「あ！パンを持ってくるのを忘れた！どうしよう！パンが1個しかない！」と言って、口喧嘩を始めてしまったのです。…愚かだと思われませんか？…でも、これが、当時の弟子たちの姿だったのです。

だから、イエス様は、そんな弟子たちの姿を見て、おっしゃるわけです。17 節、『…まだわからないのですか、悟らないのですか。心が堅く閉じているのですか。』って…。実は、ここで、『堅く…』と訳されてある言葉は、ギリシヤ語の「πωρω」(ポーロー)という単語で、この言葉は、ギリシヤ語の「岩石」を意味する(ポーロス)という言葉と関連があります。その意味するところは、「石のように硬くなったタコや、無感覚にする、鈍くする、頑固にする…」そういったイメージです。

このように、イエス様の弟子たちは、当時、イエス様が何度言っても、何度教えても…、あるいはまた、5000 人の給食や湖の水の上を歩くというような…、いろいろな経験をさせても、弟子たちは、そういったことから一向に学ぼうとしない…、そこから成長しようとしませんでした…。皆さん！覚えてくださっているでしょ？先週、私たちは、あのカナンの母親の“立派な信仰”を見て、本物の信仰とは、あのように…、様々な問題がある中で、唯一の救い主であられる、①イエス様にすがること！②熱心かつ謙虚でいるべきこと！…そうして、何より、③イエス様のお言葉に全き信頼を置くべきことを学んだはずですよ！…そういったことを、弟子たちは、何度となく、目の当たりにしていたはずなのです！

…にも関わらず、この時も弟子たちは、イエス様のお言葉を深く考えることも…、それに信頼することもできませんでした…。だから、イエス様は、おっしゃるのです！「まだ分からないのですか！まだ悟らないのですか！どうして、あなたたちの心は、そこまで堅く閉じているのですか！」って…。

そこで、イエス様は、あの 5000 人の給食の時に、最後、余ったパン切れを集めた時、幾つのカゴがいっぱいになったかを尋ねられます。…すると、弟子たちは、「12 です」と言って、正しい数を答えます。その後、「じゃあ、さっき、4000 人が満たされた後は、幾つのカゴがいっぱいになりましたか？」とイエス様が尋ねると、弟子たちは、「7 つです」と正しい答えを返します。

じゃあんと、弟子たちは、正しい答えを返すことができ…、弟子たちは、その時のことを覚えていたのです。…だったら、「どうして、あなた方は、いつまでも悟ることができないのですか！」と、イエス様はおっしゃるわけです。…恐らく、イエス様からしたら、ここまで何度も、言葉で説明して…、こんな奇蹟も見せて…、こんな経験も弟子たちにさせてきて…、それで、一体どうして、まだ分からないのですか！という感じでしょう。そこまで、弟子たちの心は、頑なであったのです！

IV・盲人 が癒された時！(8:22-26)

どうぞ、最後に、マルコ 8:22-26 に記されている、イエス様が、目の見えなかった“盲人”を癒された時のみことばに注目していきましょう。そこには、こう記されています。

22 彼らはベツサイダに着いた。すると人々が盲人を連れて来て、彼にさわってくださるよう、イエスに願った。

23 イエスは盲人の手を取って村の外に連れて行かれた。そしてその両目につばきをつけ、両手を彼に当てて「何か見えるか」と聞かれた。

24 すると彼は、見えるようになって、「人が見えます。木のようですが、歩いているのが見えます」と言った。

25 それから、イエスはもう一度彼の両目に両手を当てられた。そして、彼が見つめていると、すっかり直り、すべてのものがはっきり見えるようになった。

26 そこでイエスは、彼を家に帰し、「村に入って行かないように」と言われた。

●ここで起こった 出来事

ここでも、まずは、このみことばが教えてくれている…、この時、実際に起こったはずの“出来事”について見ていきましょう。ここで、イエス様の一行は、『ベツサイダ』に着きます。ベツサイダというのは、ガリラヤ湖の北側にある町のことです。

すると、今度は、そこに、目の見えない盲人が連れてこられます。すると、ここでも、イエス様は、その盲人の手を取って、村の外へと出ていかれます…。一体、どうして、イエス様は、その場で癒してくださいなかつたのでしょうか？⇒これまた、もう皆さんは、答えをご存知です。…恐らく、イエス様は、大々的に、大勢の前で、癒しをしたくなかつたのです。…と言いますのは、そういったことで、益々、人々の関心が、イエス様の語るメッセージではなく…、癒しや不思議な神の奇蹟にばかり、向いてしまうからです。

それと、もう一つ、ここで皆さんに注目していただきたいことがあります。それは、23-25 節の部分です。どうして、イエス様は、ここで、盲人の目を癒すのに、2度の手間をかけられたのでしょうか？1度目は、その盲人の目に唾をつけて、両手を彼に当てられました。その段階では、この盲人の目は、ぼんやりとだけ見えたようですが、はっきりとは見えなかつたようです。そして、2度目は、もう1度、イエス様が、両手を彼の両目に当てられます。すると、盲人の目は完全に癒されて、はっきりと見えるようになったのです…。

しかし…、イエス様ともあろうお方が、1度では、この盲人の目を癒すことができなかつたのでしょうか？⇒実は、私はこう思っています。実は、これもまた、弟子たちに対する訓練の一環と言うか、弟子たちの目が見えているようで…、1番肝心な「心の目」が開かれていないために、はっきりとは見えていない！という、イエス様からのメッセージを暗示しているのかも知れません。

もちろん、そういったことについて、イエス様ご自身が、あるいは、聖書のみことばが説明してくれているわけではないので、明確なことは分かりません。…しかし、明らかなことは、この時、イエス様は、弟子たちだけでなく、大勢の者たちの心の目が開かれていないことを嘆いておられたことは間違いありません。そうでしょう？

●人々の 願い

どうぞ、この当時の者たちが持っていたであろう“願い”を知るために、今度は、22 節をご覧ください。…ここでも、盲人が来たのは、実は、その盲人が自分でやって来たと言うよりも、どちらかと言うと、その周りにいた者たちが、積極的に、その盲人のことを、イエス様のところへと連れてきたということが分かります。皆さん、どう思われます？…この時、その盲人を連れてきた者たちは、本当に、その盲人のことを純粋に心配して…、イエス様のところへと連れて来たのでしょうか？…それとも、彼らは、ただ、イエス様の行なう癒しや奇蹟を見たいがために、軽い気持ちで、盲人を連れてきたのではないのでしょうか？

もちろん、はっきりとしたことは、この聖書のみことばに書かれていないため、知る術がありません。しかし、マルコ伝のみことばを学んできて…、正直、私には、そんな風な“疑い”が生じています…。

皆さん、覚えてくださっています？…マルコ 2 章には、中風の後遺症のため、自分ではほとんど動けなかつた病人のため、4人の友人が、何と、屋根を壊してまで…、その中風の人をイエス様のところへと連れてきた、というような記事がありましたでしょ？彼らの場合、その中風の人を、イエス様のところへと連れてくるのは、大変な労力であったことは間違いありません。

しかし、それに対して、今日のみことばに出てきた、この盲人も、あるいは、ろう者の場合も、彼らが、自分でやって来たというよりも、どちらかと言うと、「人々が連れてきた…」という感じで、聖書には記され

てあります。しかし、彼らを癒すに当たって、イエス様は、その両者を、村から出すなりして、群衆から引き離しておられます…。でも、どうしてでしょう？…それは、そうすることで、群衆が、盲人やろう者から離れていったからです。その程度の関心だったんじゃないでしょうか！

<励ましの言葉>

今日、私たちは、この当時、あの 12 弟子を含む大勢の者たちが、イエス様の語ってくださったメッセージを聞き、イエス様がなされた神の奇蹟を目の当たりにして…、それでも、なお、大勢は信仰に至ることが無かつたということを見てきました…。

今日のみことばにもあつた通り、当時のパリサイ人たちは、イエス様に、自分たちがイエス様のことを信じられるような「しるし」を要求しました。しかし、果たして、そんな思いで、イエス様を信じる信仰へ導かれるでしょうか？…この当時、パリサイ人たちがイエス様に要求したことは、「あなたが神の子なら、それを証明してみろ！…だったら、信じるから！」果たして、そんな態度で、信仰へと導かれるでしょうか？

マタイ 27 章には、イエス様が、私たちの罪を負って、あの十字架へかかってくださった時の様子について、こんなことを記してくれています。『41 同じように、祭司長たちも律法学者、長老たちといっしょになって、イエスをあざけて言った。42 「彼は他人を救ったが、自分は救えない。イスラエルの王だ。今、十字架から降りてもらおうか。そうしたら、われわれは信じるから。』(マタイ 27:41-42)

⇒皆さん、聞いてくださいました？…イエス様の周りには、そんな傲慢な態度で、イエス様に接する者たちが少なからず、おりました。悲しいことに、もしも、イエス様が十字架から降りられたところで、彼らは、決して、信じなかつたでしょう。なぜなら、ヤコブ書や I ペテロのみことばが教えるように、『神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。』(ヤコブ 4:6)からです。

天の神様が喜んでくださるのは、神の前にへりくだつた信仰者です。イエス様は、ろう者や盲人の癒しを通して、神の栄光を現わされました。神様が、皆さんを救われた時、「あなたを使う」とおっしゃいました。神様は、あなたの体が弱いこと…、不器用なこと、忙しいことなど、すべてを御存知です。でも、そんなあなたであっても、神様は、あなたを用いることが御出来になるし、変えることだって、御出来になります。どうぞ、皆さんの賜物を用いて、主に仕えていくことを実践していきください…。

また、ノンクリスチャンの皆さん…。この聖書が教えてくれている神様は、たった1週間ですべてを造られて…、今も、すべてを御支配なさっておられる真唯一の神様です。そんな神様に対して、私たちが何を要求できるのでしょうか？「私のために…、私が神様を信じられるように、何か奇蹟を起こしてください！」なんて、どの口が言うのでしょうか？

だって、イエス様は、あなたの罪を赦し、あなたが救われるように、自ら進んで、あの十字架にかかって、本来なら、あなたがしなければならぬ罪の清算を、イエス様が代わって、なしてくださったわけでしょ？…どうか、今日、このメッセージを聞いてくださっている皆さんも、「もしも、神様が、何かの奇蹟を私に見せてくださったら、私も信じられるのに…」というような傲慢な態度ではなく…、天の神様の前にへりくだつた態度で、聖書のみことばを学び続けて、このイエス様というお方が、真唯一の神様であり、私たちに与えられた約束の救い主なのか？それとも、“稀代の大王ソツキ”なのか？…どうか、そういったことを、この聖書のみことばを学びつつ…、納得いくまで、探求していきくださって…、最後は、勇気をもって、このイエス様のことを信じていただきたいと思ひます。なぜなら、このイエス様は、あなたのことを、罪の束縛と罪がもたらす、永遠の裁きから救うために、自ら進んで、あの十字架にかかって、そのいのちさえ犠牲にしてくださいなつたようなお方だからです。…最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。